

## ◆ NPO 法人 JAVCOM No.145 セミナー 開催概要 ◆

### 動画配信ビジネス ～ これからの放送・映像市場は ～

2016年3月10日(木) 14:00～17:40(受付開始 13:20～)

会場 富士フィルム 西麻布ホール 東京都港区西麻布 2-26-30 1F (東京銀座線 表参道 徒歩 15分 日比谷線六本木 徒歩 15分)

地図 [http://ticket-search.pia.jp/pia/venue/venue\\_access\\_map.do?venueCd=FJFH](http://ticket-search.pia.jp/pia/venue/venue_access_map.do?venueCd=FJFH)

昨年動画配信サービスが本格的にスタートされ、動画配信ビジネスの拡大が予想される中、我々を取り巻くメディアの環境は、大きく変化を遂げていくと考えられます。本セミナーでは、動画配信市場について注目し、現状の動向と今後の見通しを交えて、動画配信事業者の方々に講演頂きます。皆様のビジネスに繋がる貴重な機会として企画しました。

#### 講演1 基調講演 14:05～15:05

「消費者のメディア利用の変化と動画配信サービス市場動向について」

株式会社野村総合研究所 ICT・メディア産業コンサルティング部

メディアコンテンツグループマネージャー 上級コンサルタント 三宅 洋一郎氏

#### 講演2 15:05～15:50

「Eiベックス・デジタル社が目指す動画配信市場での取り組み」

-会員数 NO.1 サービス dTV の現状と今後の展望

-リアルとデジタルの融合した新サービス ゲオチャンネルの展望

Eiベックス・デジタル株式会社 常務取締役 デジタルビジネス本部 本部長 村本 理恵子氏

15分休憩 (15:50～16:05)

#### 講演3 16:05～16:50

bonobo (ボノボ) 「"bonobo (ボノボ)" の事業戦略」

パケットビデオ・ジャパン株式会社 取締役社長 COO 加藤 徹氏

#### 講演4 16:50～17:35

U ▶ NEXT 「U-NEXT 今後の戦略について」

株式会社 U-NEXT 取締役 NEXT 事業本部長 堤 天心氏

※都合により演題等変更になる場合がございます。

会費：JAVCOM 会員社 5,000円 一般参加者 6,000円 後援団体会員社 5,000円

主催：NPO 法人 日本ビデオコミュニケーション協会 <http://javcom.or.jp/>

後援：(予定)

ITVA - 日本・(一社)映像情報メディア学会・(公社)映像文化製作者連盟・(一社)全日本シーエム放送連盟・(一社)全日本テレビ番組製作社連盟・(一社)日本アド・コンテンツ制作社連盟・(一社)日本映画製作者連盟・(一社)日本映画テレビ技術協会・(協同)日本映像事業協会・(一社)日本映像ソフト協会・(一社)日本ポストプロダクション協会・(一社)日本民間放送連盟・ジャパンデーターストレージフォーラム ※順不同

#### ●お申込みの方法●

〔申込手続き〕下記の用紙に必要事項をご記入の上、JAVCOM 事務局まで FAX でお申込み下さい。

〔お支払い方法〕お申込み手続き後、下記の振り込み先へ3月7日(月)までにお振込み下さい。

必ず事前にお振込み下さい。尚、振込手数料は貴社にてご負担をお願い致します。

※請求書が必要な場合は、事務局まで事前にお申し出下さい。(通信欄に記入)

〔振込先〕三井住友銀行 麹町支店(普通) 1050804 [日本ビデオコミュニケーション協会]

※3月4日(金)以降のキャンセルの場合は、会費を全額請求させていただきますのでご了承下さい。

※申込み締切り：3月3日(木)

NPO 法人 日本ビデオコミュニケーション協会 事務局 〒102-0093 千代田区平河町2-3-10-510

TEL.03-3234-5994 FAX.03-3234-5995

## ◆第5回ファイルベースワークフロー補完セミナー◆ 『オンライン編集とVFX』 開催のご案内

一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 (JPPA) は2016年2月10日(水)、ご好評をいただいている「ファイルベースワークフロー補完セミナー」の第5回目を、『オンライン編集とVFX』をテーマに開催します。

今回は株式会社ロゴスコープ 亀村文彦氏を講師としてお招きし、シーンリニア / ACES 等の最新映像技術について解説頂きます。

その後、メーカーセッション、パネルディスカッションによる3部構成によって、編集やVFXにおける「今」、そして「これから」の映像技術知識と運用ノウハウを学ぶ多彩な内容となっております。

### 【記】

◇第5回ファイルベースワークフロー補完セミナー『オンライン編集とVFX』

◇主催：一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 (JPPA)

◇日時：2016年2月10日(水) 13:00～18:00

◇会場：富士フィルム西麻布ホール (東京都港区西麻布 2-26-30)

◇セミナー概要 (予定)

### 第1部：60分

講演「シーンリニア / ACES と BT.2020 規格での映像制作 - 認知に基づく映像のリアリティ」

講師：(株)ロゴスコープ 亀村文彦氏 (テクニカルアーティスト)

本講演ではシーンリニア / ACES の基礎解説の後、高解像度 (4K・8K)、ハイフレームレート (HFR)、高輝度 (HDR) らの次世代フォーマットがもたらす映像のリアリティについて、昨年発売されたシャープ株式会社の 8K 映像ディスプレイを用いて詳解します。

バーニア視力を例とする Hyper Acuity、追従視に起因するスミアリング、モーションブラーとジャーキネスのトレードオフ関係など、高品質映像制作において認知される様々なビジュアルエフェクトやアーティファクトについて、日本の有数の研究者によって明らかにされた映像と人間の認知の関係に基づき解説し、その後、それらの視覚特性とシーンリニアに基づいたポストプロダクションワークフローに関する提案を致します。

### 第2部：120分

○編集・VFX メーカーセッション

ソフトウェアメーカー各社による「今が旬」なソフトの機能を紹介します。

○オートデスク [flame+Maya/3dsMax]

シーンリニア・ワークフローへの活用に向け同社製ソフトウェア連携の押えどころを解説。

○The Foundry [NUKE/NUKE STUDIO]

まだ活用していないあなたも、活用しているあなたにも役立つ解説、全部入り編集機能対応 NUKE STUDIO の解説も。

○アビッドテクノロジー+ブラックマジックデザイン [MediaComposer+Fusion]

編集の MediaComposer と、話題の Fusion、その連携フロー・機能を両社スペシャリストが解説します。

登壇メーカーおよびシステム Autodesk [Flame + Maya/3ds Max]、The Foundry [Nuke]、Avid [Media Composer] & Blackmagic Design [Fusion] (予定、順不同)

### 第3部：60分

○ユーザーとソフトウェアメーカーによるパネルディスカッション

「4K 長尺編集」に長けたソフトウェアメーカーと、各社ポストプロダクションの精鋭エンジニア達が、編集の「今」と「これから」を太いに語り合います。

《登壇各社》

アドビシステムズ株式会社 / アビッドテクノロジー株式会社 / グラスバレー株式会社 / 株式会社 IMAGICA / 株式会社 NHK メディアテクノロジー 株式会社 / 共同テレビジョン / ソニー PCL 株式会社 / 株式会社 東京サウンド・プロダクション / 株式会社 日テレ・テクニカル・リソース (順不同)

◇参加費 (当日会場で受付) : JPPA 正会員社・賛助会員社 3,000円 / 一般 4,000円 (税込)

◇定員：180人

◇お問い合わせ：JPPA 事務局 担当：深谷 (fukaya@jppanet.or.jp) TEL03-3355-6420

## ファイルベースワークフロー補完セミナーについて

CMを中心に様々なコンテンツ制作においてファイルベース収録が拡大している現状で、撮影からポストプロダクションをつなぐ“安全・確実・効率的なデータ管理”の重要性が高まっています。ファイルベースワークフロー補完セミナーは、コンテンツ制作の現場で日々発生している問題点を改めて共有し、その改善策を探っていくことを目的に開催するものです。さらに、セミナーには複数社のメーカーが参加することで、特定のファイルフォーマットやシステムに限定せず、ワークフロー全体を俯瞰することを目標としています。

第1回：データ管理の注意点とトラブル回避術 (2014年7月開催済) / 第2回：ポストプロダクション向けファイル収録の基礎 (2015年1月開催済) / 第3回：4K/60P オフライン編集～オンライン編集への橋渡し～ (2015年5月開催済) / 第4回：カラーグレーディングとコンフォーム (2015年10月開催済) / 第5回：オンライン編集/VFX (2016年2月10日開催) / 第6回：総集編 (企画中)

## ◆キャノン:世界最小・最軽量※を実現した4Kプロジェクター“4K500ST”を発売

キャノンは、「パワープロジェクター」シリーズの新製品として、5,000lmルーメンの明るさで4Kデジタルシネマ(4,096×2,160画素)を上回る4,096×2,400画素の解像度に対応した“4K500ST”を2016年4月中旬より発売する。



4K500ST

新製品は、5,000lmの高輝度な4Kプロジェクターで、世界最小・最軽量を実現している。美術館や博物館、シミュレーションやデザイン現場、大会議室やイベント会場での利用のほか、店舗や企業におけるデジタルサイネージやプロジェクションマッピングへの活用など、幅広い用途に対応。

### ■ 臨場感のある高精細な4K映像を投写

4K解像度に対応した短焦点ズームレンズを新たに開発し、4,096×2,400画素の高解像度LCOS(エルコス)パネルと自社開発の高性能映像エンジンを搭載することで、臨場感のある高精細な4K映像投写を実現している。高速画像処理技術により、毎秒60フレームの4K動画を投写できる上、最適なアップスケーリング処理を図ることで、フルHD映像を高画質な4K映像として投写できる。

### ■ 5,000lmの高輝度な4Kプロジェクターで世界最小・最軽量を実現

独自の光学システム「AISYS(エイシス)」により、光源からの光を縦方向と横方向に独立して制御し、明るさの向上と小型化を図ることで、5,000lmの高輝度と、世界最小サイズの約470(幅)×533.5(奥行)×175(高さ)mm、世界最軽量の約17.6kgを実現している。

### ■ 鮮明な高精細4K映像投写を可能にする優れた光学性能

新開発の短焦点ズームレンズは、大口径非球面レンズやUDガラスなど特殊光学材料を採用し、優れた光学性能により、最周辺部まで鮮明に、高精細な4K映像投写を実現しています。被写界深度の深いレンズの搭載により、ピントの合う範囲が広く、凹凸のある壁やスクリーンの四隅まで鮮明に投写できます。従来にない臨場感のある映像表現を可能にするレンズ開口部には、キャノンのレンズ交換式カメラ用交換レンズ「EFレンズ」の中でも最高水準の性能を追求した「Lレンズ」に象徴される赤いラインが施されている。

製品名: パワープロジェクター 4K500ST

希望小売価格: オープン価格

発売日: 2016年4月中旬 生産台数 100台/月

※4K解像度以上5,000lmクラスのプロジェクターにおいて、2016年1月12日現在。(キャノン調べ)

● 報道関係者、問い合わせ先: キャノン株式会社 広報部 広報課  
03-3757-4558 (直通)

● 一般のお問い合わせ先

キャノンお客様相談センター: 050-555-90071

● プロジェクターホームページ: [canon.jp/projector](http://canon.jp/projector)

### <主な特長>

1. 臨場感のある高精細な4K映像を投写
  - ・4K解像度に対応した短焦点ズームレンズを新たに開発し、4Kデジタルシネマを上回る4,096×2,400画素の高解像度LCOSパネルと自社開発高性能映像エンジンを搭載することで、臨場感のある高精細4K映像投写を実現。
  - ・反射型液晶LCOSパネル方式により、格子感を抑え、滑らかで高精細な映像投写が可能。
  - ・高速画像処理技術により、毎秒60フレームの4K動画に対応。
  - ・最適なアップスケーリング処理により、フルHD映像を高画質な4K映像として投写可能。

### 2. 5,000lmの高輝度な4Kプロジェクターで世界最小・最軽量※1を実現

- ・独自の光学システム「AISYS(エイシス)」により、5,000lmの高輝度と世界最小サイズの約470(幅)×533.5(奥行)×175(高さ)mm、世界最軽量約17.6kgを実現。
- ・F値2.6の被写界深度の深いレンズの採用と、光学システム「AISYS」により、ズーム操作による明るさの変動を抑制し、広角端と望遠端において同等の明るさ※2の投写を実現。

※1 4K解像度以上5,000lmクラスのプロジェクターを対象とする。2016年1月12日現在。(キャノン調べ)

※2 使用環境により、5%程度低下する可能性がある。

### 3. 鮮明な4K映像投写を可能にする優れた光学性能

- ・高精細4K映像を周辺部まで鮮明に投写するため、12群16枚からなる新開発の短焦点ズームレンズは、外径79mmの研削非球面レンズを含む大口径非球面レンズ2枚、UDガラス2枚を使用。特殊光学材料を採用し、優れた光学性能により、臨場感あふれる映像投写を実現。
- ・キャノンのレンズ交換式カメラ用の交換レンズ「EFレンズ」の中でも最高水準の性能を追求した「Lレンズ」に象徴される一本の赤いラインが施されたレンズデザイン。
- ・短焦点ズームレンズを搭載し、100型スクリーン(幅2.2m)に最短2.2mから最長2.9mの範囲で投写が可能。
- ・ドーム型スクリーンなどの曲面に光学的にピントを合わせる「周辺フォーカス」機能を搭載。100型投写時に平面から曲率半径3mまで凹面凸面ともに、光学的にフォーカス調整が可能。

### 4. プロの要望に応える充実した機能

- ・高い光学性能により、映像を重ね合わせて投写する際、スクリーンに映し出される映像の画素ずれやゆがみを最小限に抑制可能。
- ・複数のプロジェクターの映像をつなぎ合わせて投写する「エッジブレンド」機能を搭載。隣り合う映像のつなぎ目の明るさを調整し、滑らかな大画面投写が可能。
- ・4K動画再生時の入力と表示の遅延を約1.0フレームに抑制。
- ・「サブピクセル補正」機能により、画素単位より小さな色ずれを0.1

画素単位で電氣的に補正可能。ユーザーの調整した5点を元に、ズームやレンズシフトを加味して色収差を最適に補正する「5点調整」が可能。より詳細な「マニュアル調整」により、映像を9×6の格子で表した格子点54点を色別に調整可能。

・動画の視認性を向上する「モーションブラーリダクション」機能を搭載。動画再生時に文字を鮮明に読み取ることができ、強弱の調整により最適な画質調整が可能。

5. 優れた機能でさまざまな用途に対応

- ・上下方向±60%、左右方向±10%のレンズシフトが可能。そのため、多様な設置に対応。
- ・投写レンズの位置情報の設定を記憶するレンズポジション機能を搭載。

・高解像な映像信号を表示するため、複数の伝送ケーブルで映像信号を分担して伝送し、結合処理することで、高解像度の映像が表示可能。

・光学内部の機械的な絞りを駆動し、光が通過する開口部の面積を変化する「アイリス機能」を搭載。開口部の調整により、明るさやコントラストの調整が可能。

・医療用画像の国際標準規格 DICOM Part 14 ※1 に近似した、「DICOM SIM モード※2」を搭載。レントゲン写真の投写に使用される「Blue-base」と「Clear-base」に近似した、色味の異なる画像を投写することが可能。

※1 北米電子機器工業会が発行している医療におけるデジタル画像と通信のための規格 (Digital Imaging Communication in Medicine)。

※2 ユーザーの希望により出荷時に設定する無償オプション。医療診断用機器ではないため、実際の診断には使用できません。

## <主な製品仕様>

映像素子	形式	反射型液晶パネル (LCOS)
	枚数	3枚
	画素数	4,096×2,400
投写レンズ	ズーム	1.3倍 (電動)
	焦点距離	f=17.2~22.3mm
	F値	F2.6
	投写距離	0.9~17.7m
	100型ワイド投写距離	2.2~2.9m
	投写比※1	1.0~1.3 : 1
最大入力解像度		4,096×2,400 ドット
映像	明るさ※2	5,000lm (フルパワー)
	コントラスト比※3	2500 : 1
	画面サイズ	最小40型~最大600型 (16 : 10)
	レンズシフト	上下方向±60%、左右方向±10%
接続端子	映像入力	DVI-D×4、HDMI×2
	音声入出力	ステレオミニジャック×2 (入力1、出力1)
	制御	Dsub9、USB Type A、RJ45
スピーカー		5W (モノラル)
キーストーン補正範囲		上下最大±20°、左右最大±20°
ランプ出力 (フルパワー/エコ)		400W/300W
騒音レベル (フルパワー/エコ)		39/34dB
使用温度		0°C~40°C
消費電力 (フルパワー/エコ/待機 LAN 消費電力 /待機 LAN OFF)		600W/470W/0.8W/0.4W
外形寸法 (突起部含む)		約470 (幅) ×533.5 (奥行き) ×175 (高さ) mm
質量		約17.6kg

※1 100型で投写する場合の計算値。

※2 出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2003 データプロジェクターの仕様様式に則って記載し、測定方法、測定条件については附属書2に基づいています。

※3 全白：全黒、プレゼンテーションモード。

## ◆フィックスターズ：世界最大容量の 13TB SSD「Fixstars SSD-13000M」を日米同時に発売



「Fixstars SSD-13000M」および「Fixstars SSD-10000M」は、これまでの Fixstars SSD シリーズの製品と同様、独自開発の SSD コントローラーを搭載し、長期間にわたって安定したシーケンシャル I/O 性能（リード最大 540MB/s、ライト最大 520MB/s）を実現した国産の SSD です。オブジェクトストレージ、ストリーミング配信、CG/VFX 編集、4K/8K 映像処理といった、大容量データに対する安定的なシーケンシャルアクセスが求められるアプリケーションに最適です。本製品は、容量、I/O 性能、信頼性、耐久性をカスタマイズできる BTO モデルとして提供される。

フィックスターズ 代表取締役社長、三木 聡は以下のようにコメントしている。

「昨年 5 月に当時世界最大容量の 6 TB\*3 を備えた SSD-6000M を発売したことに続いて、13TB の容量を備えた SSD-13000M を業界に先んじて提供できることを大変嬉しく思います。Fixstars SSD シリーズは、大容量データの読み込みおよび書き込みを長期間安定して行える製品として高い評価を受けており、さらなる大容量化が期待されておりました。今後もユーザーニーズに応えたユニークなソリューションを開発し、日本および米国市場を中心に提供して参ります。」

### オブジェクトストレージやストリーミング配信などに最適

株式会社フィックスターズ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：三木 聡、以下フィックスターズ）は、2.5 インチ ソリッド・ステート・ドライブ(SSD)として世界最大容量\*1 を誇る 13TB\*2 の「Fixstars SSD-13000M」と 10TB\*2 の「Fixstars SSD-10000M」を発表しました。フィックスターズは、1 月 13 日より両製品の受注を日本および米国市場において開始し、2 月下旬より順次出荷予定。

▶ Fixstars SSD シリーズに関する情報は、  
<http://www.fixstars.com/ja/ssd/>

\*1 発売されている 2.5 インチ 15mm 厚 SSD として。2016 年 1 月 13 日時点、フィックスターズ調べ。

\*2 1TB = 1,000,000,000,000 バイト。実際にユーザーが使用できる容量はこれより小さくなります。

\*3 発売されている 2.5 インチ 9.5mm 厚 SSD として。2015 年 5 月 7 日時点、フィックスターズ調べ。

## ◆グラスバレー：EDIUS Neo から EDIUS Pro 8 へのスペシャルプロモーションを開始 期間限定の特別価格で最新バージョンへの移行が容易に

グラスバレー株式会社（代表取締役：北山二郎、本社：兵庫県神戸市）は、ノンリニアビデオ編集ソフトウェア EDIUS Neo から EDIUS の最新バージョン EDIUS Pro 8 へのアップグレードを、期間限定の特別価格にて提供する「EDIUS Pro 8 アップグレード版 from Neo」の出荷を 1 月 29 日から開始する。

本プロモーションでは、2016 年 1 月 29 日から 7 月末日まで間、対象の Neo 製品をお持ちのユーザー様は特別価格の 39,800 円にて EDIUS Pro 8 へのアップグレードが可能となる。

「これまで様々なお客様から高い評価を頂いている EDIUS Pro シリーズを、これを機会に更に多くの皆様にご採用いただき、よりクリエイティブな作品制作の一助になれば幸いです。」と、グラスバレー株式会社 代表取締役 北山二郎はコメントしている。

EDIUS 8 は、SD・HD・4K の主要なファイルフォーマットで作成されたビデオコンテンツを、レンダリングなしで編集することができる。また、他の編集ソフトに比べて圧倒的に高速なリアルタイム編集環境が提供される。EDIUS 8 は Windows 10 にも対応し、ビデオ、オーディオや PC 上に保存された各種の素材コンテンツを統合管理し、映像編集のワークフローを改善するための新ツール「GV Browser」が搭載されている。また、EDIUS 8 のユーザーには、マイナーアップデートにおいては無償で提供されますので、サブスクリプションなどのコストは不要です。

本プロモーションは日本国内でのみ実施されます。対象製品につきましては、グラスバレーウェブサイトにて要確認。

(<http://www.grassvalley.jp/>)

EDIUS Neo、EDIUS Express は、在庫がなくなり次第、販売を終了。

### Grass Valley について

グラスバレーは、日々変化し続ける放送業界を牽引する放送局・コンテンツ所有者・サービスプロバイダーに、引き続き、次世代へ発展可能なソリューションを提供します。グラスバレーは業界で最も包括的なワークフローソリューションで、増え続けるコンテンツやデバイスに対するお客様のご要望に応えるため、技術的先見性を提供しつつも競争力を維持するための効率性と柔軟性を可能にするエンド・ツー・エンドのテレビ番組制作やコンテンツ配信ワークフローを提供する。グラスバレー（本社：カナダ・モントリオール）は、ベルデン社（本社：アメリカ・セントルイス）に買収された、グラスバレーグループとミランダテクノロジーに蓄積された深い専門知識を最大限に活かしている。ベルデンは、工業・企業・放送などのマーケットで極めて重要なネットワークインフラストラクチャーの要求に応える、総合的な製品群を提供する。急速に増え続ける今日のアプリケーションに必要なデータ・オーディオ・ビデオの信頼性と安全性の高い伝送をターゲットとした革新的なソリューションで、ベルデンは connected world への世界的変化の中心的役割を担っている。

▶ベルデンの詳細な説明については、[www.belden.com](http://www.belden.com)

## ◆ NPO 法人 JAVCOM No.145 セミナー 開催概要 ◆

### 動画配信ビジネス ～ これからの放送・映像市場は ～

2016年3月10日(木) 14:00～17:40(受付開始 13:20～)

会場 富士フィルム 西麻布ホール 東京都港区西麻布 2-26-30 1F (東京銀座線 表参道 徒歩 15分 日比谷線六本木 徒歩 15分)

地図 [http://ticket-search.pia.jp/pia/venue/venue\\_access\\_map.do?venueCd=FJFH](http://ticket-search.pia.jp/pia/venue/venue_access_map.do?venueCd=FJFH)

昨年動画配信サービスが本格的にスタートされ、動画配信ビジネスの拡大が予想される中、我々を取り巻くメディアの環境は、大きく変化を遂げていくと考えられます。本セミナーでは、動画配信市場について注目し、現状の動向と今後の見通しを交えて、動画配信事業者の方々にご講演頂きます。皆様のビジネスに繋がる貴重な機会として企画しました。

#### 講演1 基調講演 14:05～15:05

「消費者のメディア利用の変化と動画配信サービス市場動向について」

株式会社野村総合研究所 ICT・メディア産業コンサルティング部

メディアコンテンツグループマネージャー 上級コンサルタント 三宅 洋一郎氏

#### 講演2 15:05～15:50

「Eiベックス・デジタル社が目指す動画配信市場での取り組み」

-会員数 NO.1 サービス dTV の現状と今後の展望

-リアルとデジタルの融合した新サービス ゲオチャンネルの展望

Eiベックス・デジタル株式会社 常務取締役 デジタルビジネス本部 本部長 村本 理恵子氏

15分休憩 (15:50～16:05)

#### 講演3 16:05～16:50

bonobo (ボノボ) 「"bonobo (ボノボ)" の事業戦略」

パケットビデオ・ジャパン株式会社 取締役社長 COO 加藤 徹氏

#### 講演4 16:50～17:35

U ▶ NEXT 「U-NEXT 今後の戦略について」

株式会社 U-NEXT 取締役 NEXT 事業本部長 堤 天心氏

※都合により演題等変更になる場合がございます。

会費：JAVCOM 会員社 5,000 円 一般参加者 6,000 円 後援団体会員社 5,000 円

主催：NPO 法人 日本ビデオコミュニケーション協会 <http://javcom.or.jp/>

後援：(予定)

ITVA - 日本・(一社)映像情報メディア学会・(公社)映像文化製作者連盟・(一社)全日本シーエム放送連盟・(一社)全日本テレビ番組製作社連盟・(一社)日本アド・コンテンツ制作社連盟・(一社)日本映画製作者連盟・(一社)日本映画テレビ技術協会・(協同)日本映像事業協会・(一社)日本映像ソフト協会・(一社)日本ポストプロダクション協会・(一社)日本民間放送連盟・ジャパンデーターストレージフォーラム ※順不同

#### ●お申込みの方法●

〔申込手続き〕下記の用紙に必要事項をご記入の上、JAVCOM 事務局まで FAX でお申込み下さい。

〔お支払い方法〕お申込み手続き後、下記の振り込み先へ3月7日(月)までにお振込み下さい。

必ず事前にお振込み下さい。尚、振込手数料は貴社にてご負担をお願い致します。

※請求書が必要な場合は、事務局まで事前にお申し出下さい。(通信欄に記入)

〔振込先〕三井住友銀行 麹町支店(普通) 1050804 [日本ビデオコミュニケーション協会]

※3月4日(金)以降のキャンセルの場合は、会費を全額請求させていただきますのでご了承下さい。

※申込み締切り：3月3日(木)

NPO 法人 日本ビデオコミュニケーション協会 事務局 〒102-0093 千代田区平河町 2-3-10-510

TEL.03-3234-5994 FAX.03-3234-5995

## ◆アビッド：パークリー・オンライン、新たな学生の獲得に Avid Everywhere のパワーを活用

～ Avid Pro Tools | First ソフトウェア、次世代オーディオ・プロフェッショナルの教育を目的とする新たな無償の大規模公開オンライン講座 (MOOC) の基盤に～

Avid (R) (NASDAQ: AVID) は、パークリー音楽大学のオンライン公開講座、パークリー・オンラインが、さらに多くの学生を獲得するために、Avid Everywhere を活用した Pro Tools 専門の大規模公開オンライン講座 (MOOC) を開始することを発表した。業界標準の音楽及びオーディオワークステーションの無償版 Pro Tools | First とこの無料コースにより、ミュージシャンやメディア・プロフェッショナルの卵は、自己の創作的目標を達成するために必要なツールとトレーニングを受けることができる。

「パークリーは、高品質の音楽教育をより広く提供することに注力しています。Pro Tools Basics MOOC は、業界標準の音楽制作ツールの学習に興味がある人にとって、魅力的な出発点になります」とパークリー・オンライン学部長の Carin Nuernberg 氏は話します。「このコースは、パークリーでも大変人気が高く、パークリー・オンラインの音楽制作学士プログラムで Pro Tools を教える Chrissy Tignor Fisher 教授が受け持ちます。また、このコースでは、世界中の数千ものプロフェッショナル・クリエイターの卵が音楽プロジェクトを共有し、コラボレーションできるコミュニティを提供します。」

Avid のバイスプレジデント兼最高製品責任者 (CPO) のダナ・ルチカは話します。「Avid Everywhere を通じて、Avid は業界トップのツールをさらにパワフルに、さらにアクセスしやすくするだけでなく、アーティスト、メディア・プロフェッショナル、そして彼らが制作するメディア間にコラボレーション、効率性、収益性の高い繋がりを提供します。このパークリー・オンラインの新しい無料コースによって、未来のミュージシャン、エンジニア、プロデューサーが、世界で最も信頼の高い教育機関による Pro Tools を使った総合的なトレーニングを簡単に利用できるようになります。」

### ● Pro Tools | First および新しい Pro Tools Basics MOOC 特長

- ・業界標準の音楽およびオーディオ・ワークステーションへ無償でアクセス可能
- ・世界最大の私立現代音楽大学から無償で Pro Tools を学習
- ・世界中のどこからでも受講可能

コンピュータを使った音楽制作の経験がある学生も、コンピュータベースの音楽制作が初めての学生も、4週間の Pro Tools Basics コースは、MIDI プログラミング、制作、レコーディング、ミキシング用の制作ツールとして、Avid Pro Tools の世界を覗くことができる入門編です。コースは、Pro Tools の使い方について総合的なトレーニングを提供するだけでなく、学生のクリエイティブ及びメディア業界でのキャリア形成を支援するよう作られている。

パークリー・オンラインについてパークリー・オンラインは、高く評価されたパークリーのカリキュラムを世界中のどこからでも利用できるパークリー音楽大学のオンライン公開講座。世界的に著名な教授陣が教鞭を取るパークリー・オンラインの受賞歴ある公認オンラインコース、マルチコース認定プログラム、bachelor of professional studies (学士コース) は、音楽に興味のある人々、音楽業界で働くことに興味のある人々に、生涯教育の機会を提供する。

## ◆Avid、Avid Everywhere の重要な約束を果たすオーディオ向けの画期的な革新を発表

～ NAIM 2016 において Avid は、包括的なグローバル・エコシステムにおけるオーディオ・カスタマーの音楽制作、協業、配信をサポートする Pro Tools 向け Avid クラウド・コラボレーション、Avid マーケットプレイスの拡大、Sibelius 8.1 等を発表～

Avid (R) (NASDAQ: AVID) は、Avid Everywhere™ を実現する革新的な新機軸をオーディオ業界に向けて発表しました。Avid MediaCentral Platform で稼働するこれらの技術革新は業界の最重要課題に対応する。コンテンツ・クリエイターは、技術革新によりパワー、効率性、収益性を

向上して、聴衆と繋がることできる。

取締役会長、社長兼最高経営責任者のルイス・ヘルナンデス・ジュニアは話します。「Avid Everywhere により、Avid はミュージシャンやオーディオ・プロフェッショナルの最大かつ最重要な問題の解決をサポートする意欲的な戦略を掲げました。重要な技術革新により、ミュージシャンやオーディオ・プロフェッショナルが包括的なグローバル・エコシステムで繋がって協業し、必要なツールを必要な時に必要な場所で得て、世界を舞台に活躍することができるよう支援し、Avid Everywhere の約束を果たします。」

### ● Pro Tools 向け Avid クラウド・コラボレーション機能

スタジオの障壁を取り除く Avid は、待望の Pro Tools 向け Avid クラウド・コラボレーションへの先行アクセスを特定の選ばれたお客様へ提供する Pro Tools (R) 12.5 ソフトウェアを発表した。Avid クラウド・コラボレーション機能により、アーティストやオーディオ・プロフェッショナルは、世界中のどこからでもプロジェクトの作曲、録音、編集、ミキシングが行えるようになる。このリリースに合わせて、Avid は、コラボレーションを促進するオンライン・コミュニティ「アーティスト・コミュニティ」をあらゆる人に開放する。Pro Tools 12.5 は、この1年間で5番目のリリースになり、我々のより頻繁な革新開発の約束を実践するものだ。

**Avid Marketplace:** 業界のトップ開発者による認定プラグインへアクセス Avid は、Avid Store を通じて AAX オーディオ・プラグインを販売する数多くの開発者により、Avid マーケットプレイスがその勢いを継続していると発表しました。認定オーディオ・プラグイン数はますます増加しており、お客様は、幅広い認定オーディオ・プラグインへアクセスして、新たな制作の機会を探し、最高音質のミックスを作成することができます。新たに加わったコネクティビティ・パートナーには、AIR Music Technology、Crane Song、DISK Multimedia、Flux:: Sound and Picture Development、Mathew Lane、Metric Halo、Quiet Art、SONI VOX、Whole Grain、Waves 等が含まれる。

加えて、Avid はアプリ内購入エクスペリエンスを強化して、Pro Tools ユーザーが Pro Tools から直接 Avid プラグインを購入し、オーソライズできるようにしました。ユーザーは、制作の流れを止めることなく、必要な時に、プラグインを素早く簡単に入手することができる。

**Sibelius 8.1 ソフトウェア:** 美しく正確な楽譜を作成 Avid は、記譜ソフトウェアの新バージョン Sibelius (R) 8.1 を発表した。これにより、作曲家は正確で読みやすく美しい楽譜を、これまで以上に簡単に作成することができる。この Sibelius 8.1 は、Avid スタンダード・サポート・プランに加入の方には、通常の無料アップデートとして配布される。ユーザー・コミュニティで最も要望が高い幾つかの機能を搭載し、顧客ニーズに耳を傾けるという Avid の姿勢を実証するものだ。

**Pro Tools | S6:** ミキシングにおける技術革新を推進 Avid は、世界中のスタジオや制作会社への Pro Tools | S6 導入が進み、その導入実績が約 1,000 に上ったことを発表した。ソフトウェア・バージョン 2.1 及び S6 マスター・ジョイスティック・モジュールに加え、S6 マスター・ポスト・モジュールにより効率性と柔軟性がさらに向上し、オーディオ・プロフェッショナルは最も要件の厳しいプロジェクトにも対応して、最高の作品を作成することができる。

Pro Tools のパークリー・オンライン・大規模公開オンライン講座 (MOOC) Avid は、パークリー音楽大学のオンライン公開講座パークリー・オンラインが Avid Everywhere を活用した Pro Tools 専門の新たな大規模公開オンライン講座 (MOOC) を開始し、より多くの学生を獲得すると発表した。これまで 16 万人がダウンロードした Pro Tools の無償版 Pro Tools | First とこの無料コースの組み合わせにより、ミュージシャンやメディア・プロフェッショナルの卵は、創作的目標を達成するために必要なツールとトレーニングを得ることができる。

▶問い合わせ先：アビッドテクノロジー株式会社マーケティング部 03-3505-7937 (代表) news\_jp@avid.com